

編集後記

*

三月一日に起きたマグニチュード九・〇という地震に対して人間はいかに無力なのか。地震直後の史上最大の津波の猛威に対して驚愕するしかない。日本は自然とともに生きてきたという風土があるが、今回は途轍もない自然の脅威に成すべがない。この一文を書いている今も、まだ余震が絶えないし、惨禍のなか、福島原子力発電所の事故は予断を許さない。最悪の事態の回避を目下祈るしかない。

*

今号から、和田忍氏が入会し寄稿されたこと、広嶋進氏と、復本一郎経営学部名誉教授とが寄稿されたことは誠に喜ばしく、他の寄稿者を含め、この場を借りてお礼を申し上げたい。今後ともよろしくお願い申し上げる次第である。

*

本誌は、内容に関してあまり範囲を限定せずにある程度自由に執筆できることを特色としており、今回も日本語に限ってはいるもののその例にならない多岐にわたる。また、経営学部の教員全てに開かれているゆえ、入会され奮って投稿されたい。これまでの

*

ジャンルで言えば、論文、研究ノート、創作、評論、エッセイ、批評、翻訳などがある。

最後に大震災が起きた今、日本全体が危殆に瀕していると言つてよい。一日も早い日本の復興を祈らざるを得ない。われわれは大学のさまざまなイベントを中止したり、延期したりせざるを得ないが、いろいろな意味で最善を尽くしたい。一六年前の阪神・淡路大震災で微力ながら学生とともにボランティアとして活動した。時代が多少変化しグローバル化が進み、世界の国々からの支援もきており、地球市民的活動を見ると正に心を動かされる。そして、世界はわれわれを見守ってくれているのである。